

被災地でのボランティア活動における感染症対策

静岡大学保健センター 2011年8月31日

出発前

* 毎年の定期健康診断は 必ず受けていること。

* 被災地で、破傷風の発生が認められています。

過去10年以内に破傷風の予防接種をしていない場合は、必ず接種してください。

(小学校高学年で受ける DT (ジフテリア・破傷風) 2種混合ワクチン)

また、麻疹の2回目の予防接種をしていない場合にも予防接種してください。

* 行く前に、以下のHP等を参照して、現地の感染状況を把握しておきましょう。

(ア) 国立感染症研究所感染症情報センター：東北地方太平洋沖地震関連

<http://idsc.nih.go.jp/earthquake2011/index.html>

(イ) 日経トレンディール：被災地ボランティアの前に知るべき感染症対策

<http://trendy.nikkeibp.co.jp/article/column/20110421/1035295/?ST=life&P=1>

現地

注意・必需品

1. マスク(不織布)の着用：毎日交換、活動日数分プラス余裕をもって

2. 手洗い・手指消毒：感染性胃腸炎が頻発しています。

可能な限り水で手洗いをしましょう。

最低でもウェットティッシュや速乾性手指消毒剤を持参してください。

3. 登山靴か安全靴：がれきを踏み抜いて、怪我をする危険があります(破傷風の危険)。

靴底の厚いものを履いてください。

4. 手袋の着用：がれきの撤去などに従事する場合は、最低でも軍手。

できれば厚手の手袋を着用しましょう。

5. 衣服：速乾性の肌着、服装は肌の露出を控えたもの。

6. 健康管理：怪我をした時は、速やかに流水で洗い流す。

破傷風の予防接種をしていたとしても 医師に相談してください。

体調管理に努め、無理をしない。

あった方がよいもの

保険証のコピー、普段使用している内服薬・外用薬、傷の手当用品